

第4回全国在宅医療会議における主な意見

(7つの柱について、全国在宅医療会議ワーキンググループからの報告)

- 「在宅医療に関連する医療連携モデルの構築」という文言について、この表現だと在宅医療にかかわる人同士の連携という意味合いが強いのではないか。
- 7つの柱はそのままで良いが、もう一つ何か見える化が必要である。
- 「在宅医療及び医療・介護連携に関するワーキンググループ」内で、地域ごとの資源状況を踏まえて、どのような地域医療提供体制を作るのかということが検討されるのではないかと思っている。
- 重点分野のゴールは何かというと、最後まで安心して暮らせるまちづくりということではないか。
- 市民の力をどう生かすか、7つの柱の中に入れて市民の力を発揮してもらうため、発揮してもらうために、在宅医療・介護もあっていいのかなと思う。

(今後の進め方について)

- 国民への普及・啓発は、とても時間がかかる為急ぐ必要がある。
- この会議と「在宅医療及び医療・介護連携に関するワーキンググループ」が情報共有しながら、どのように進んでいるのかということ各団体も認識しつつ、活動を進めていくべきなのではないか。

(その他)

- この会議はできているところが対象ではないのではないか。できていないところをどうするかという会議であり、都市部は都市部なりの現状、過疎地は過疎地なりの現状がある。